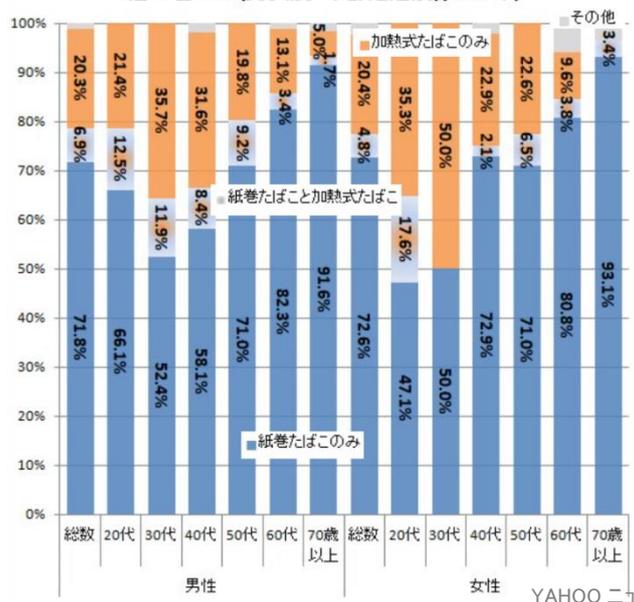


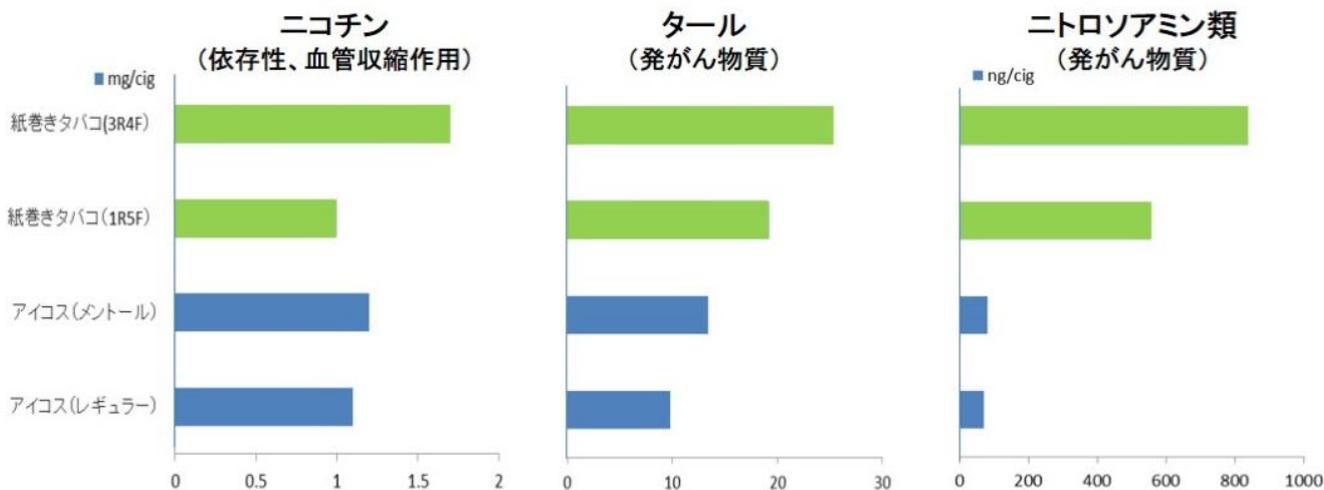
習慣的に喫煙している人が使用しているたばこ製品の組み合わせ(男女別・年齢階層別)(2019年)



タバコに火をつける場面は減ってきています。というのは皆さんも知ってのとおり加熱式タバコが増えてきているからです。左のグラフにあるように、年齢によってばらつきますが平均すると1/4程度の喫煙者はタバコに火をつけません。

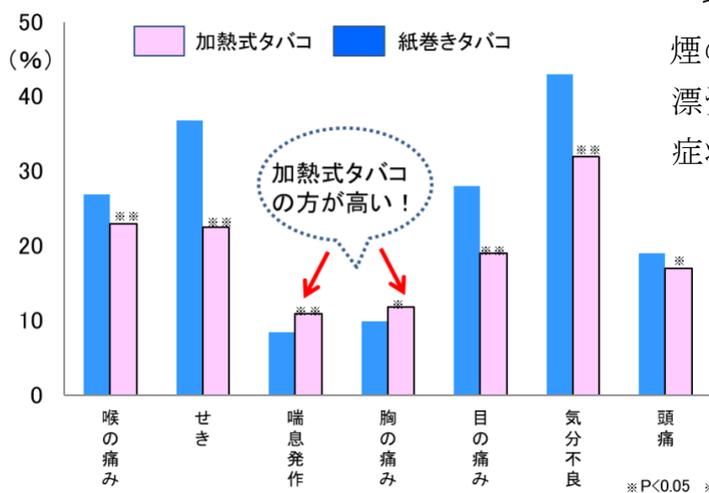
火を使わない加熱式タバコはモクモクと煙が出ないので、見た目の有害性や周りへの被害がないかのように思い込みがちです。しかし、吸い込む煙のような水蒸気には紙巻タバコと同様の有害成分が含まれています。下図にあるようにニコチン、タールは同程度の濃度で含まれているのです。

新型タバコ(アイコス)と紙巻きタバコに含まれる有害物質の濃度の比較



Bekki K. Comparison of Chemicals in Mainstream Smoke in Heat-not-burn Tobacco and Combustion Cigarettes. J UOEH 2017; 39(3):201-207

受動喫煙で急性症状が出た人の割合



そして、煙が出ないので周りの人に対する受動喫煙の心配もいらないように思われますが、空気中に漂う目には見えない有害成分のせいで左図のような症状が出ています。

つまり、加熱式タバコにも健康被害は確実にあるのです。見た目のスマートさに惑わされてはいけません。

産業デザイン科 奥田恭久